

平成16年度宮古群島病害虫発生予報第8号（11月予報）

**11月の気象予報**

要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	並	並	並

（平成16年10月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報）

地域平均の要素別「平年並」の範囲

要素	気温（℃）	降水量（mm）	日照時間（h）
宮古群島	22.9～23.5	116.0～186.3	111.9～133.8

（平成16年10月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報）

**11月の発生予報 および防除上の注意事項**

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

**宮古群島**

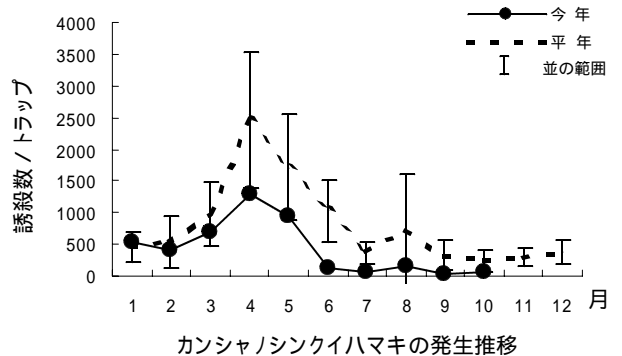
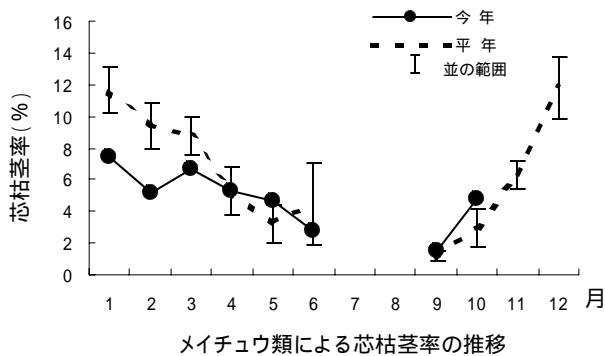
**1 さとうきび**

**(1) メイチュウ類**

発生程度：並

予報の根拠

- a 10月中旬の調査の結果、新植夏植圃場での芯枯茎率は4.8%（前年2.1%、平年3.0%）と平年よりやや高かった。
- b 10月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は68.7頭（前年45.0頭、平年240頭）と平年よりやや少なかった。



**防除上注意すべき事項**

- a 加害による芯枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 夏植の苗植付時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

## 野その防除対策について

- a 被害は台風で倒伏した収穫前の圃場で多くなる。
- b 今後のブリックス上昇に伴い加害が予想される。
- c 市町村単位で航空防除が実施されるが、例年発生の多い地域では地上防除を併用する。
- d 畜舎や原野等の隣接圃場では被害が多いので重点駆除する。
- e はく葉等を行い、圃場の環境整備に努める。

## 2 かぼちゃ

### アブラムシ類、ハモグリバエ類の防除対策について

- a アブラムシ類はかぼちゃのモザイク病を媒介するので、飛来定着を防止するため、畝間に防風対策を兼ねたソルゴーなどの障壁作物を植え付けるか、寒冷紗等の資材を利用する。
- b ハモグリバエ類は初期防除が重要である。多発してからは防除が困難になるので、早期発見に留意する。
- c 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。